

資料2

令和3年7月14日

墨田区における火災等の発生状況



本所消防署・向島消防署

目 次

火災の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

- 1 令和2年中の火災発生状況等
- 2 令和3年中の火災発生状況等
- 3 火災件数及び焼損床面積の推移
- 4 令和2年中の主な火災出火原因

救急の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

- 1 令和2年中の救急件数等
- 2 救急件数及び搬送人員の推移
- 3 令和2年中の年代別救急搬送人員
- 4 搬送件数に占める軽症者の割合

季節の事故について①【熱中症事故】・・・・・・・・ P 5

- 1 令和2年中の熱中症による救急搬送人員
- 2 「新しい生活様式」での熱中症予防対策

季節の事故について②【河川やプールでの事故】・・・・ P 6

- 1 河川やプールの事故による年代別救急搬送人員
- 2 事故発生場所別救急搬送人員
- 3 河川やプール等での水の事故を防ぐために

火災の状況

1 令和2年中の火災発生状況等

	火災件数 (件)	内訳 (件)		焼損床面積 (㎡)	死者 (人)	傷者 (人)
		建物火災	建物以外			
東京消防庁	3,688 (-401)	2,667 (-237)	1,021 (-164)	16,092 (-2,203)	88 (-20)	710 (5)
墨田区合計	77 (-4)	58 (4)	19 (-8)	242 (-83)	2 (1)	22 (11)
本所消防署	48 (2)	42 (12)	6 (-10)	151 (5)	1 (1)	13 (6)
向島消防署	29 (-6)	16 (-8)	13 (2)	91 (-88)	1 (0)	9 (5)

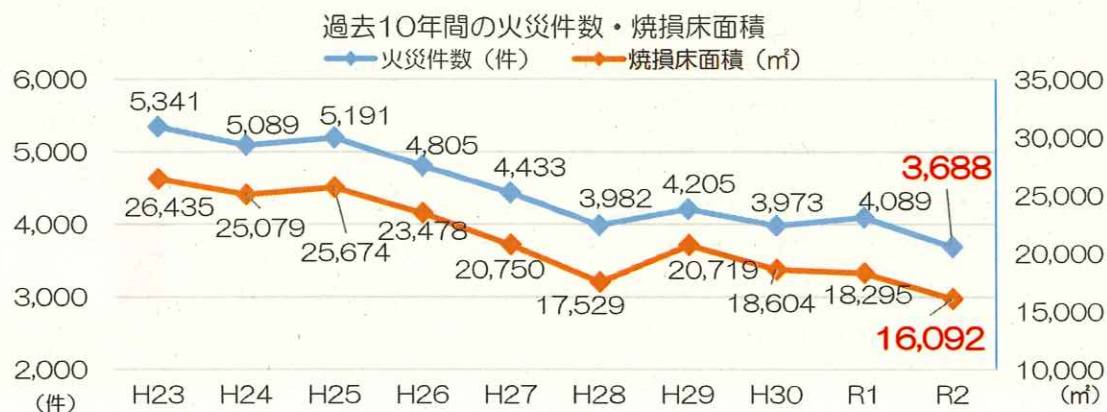
※ () は前年比を示します。

2 令和3年中の火災発生状況等 (令和3年5月31日現在 速報値)

	火災件数 (件)	内訳 (件)		焼損床面積 (㎡)	死者 (人)	傷者 (人)
		建物火災	建物以外			
東京消防庁	1,865 (208)	1,266 (55)	599 (153)	8,840 (1,520)	40 (-11)	316 (0)
墨田区合計	39 (4)	28 (2)	11 (2)	27 (-64)	1 (0)	8 (-5)
本所消防署	25 (7)	21 (4)	4 (3)	17 (-50)	0 (-1)	8 (0)
向島消防署	14 (-3)	7 (-2)	7 (-1)	10 (-14)	1 (1)	0 (-5)

※ () は前年比を示します。

3 火災件数及び焼損床面積の推移【東京消防庁管内：過去10年間】



4 令和2年中の主な火災出火原因【墨田区】

	1位	2位	3位	4位	5位
火災原因	ガス設備関係	電気設備関係	放火・疑い	たばこ	その他
件数	22件 (8)	19件 (-1)	13件 (2)	10件 (-7)	13件 (-6)

※ () は前年比を示します。

消防署からのお願い

1 住宅用火災警報器の点検・交換について

住宅用火災警報器は古くなると電子部品の劣化や電池切れなどで火災を感知しなくなることがあります。日頃から点検をするとともに、設置10年を目安に本体の交換を検討しましょう。

点検方法

本体のボタンを押すか、ひもを引いて点検ができます。正常な場合、正常をお知らせする音声や警報音が鳴ります。



ボタンを押す！



ひもをひく！



※一般的に点検の音声等は自動で停止します。

2 放火火災対策について

- ◎家の周りは整理整頓するなど、燃えやすいものを置かないようにしましょう。
- ◎ゴミは格好の標的です。ゴミは決められた日の朝、決められた場所に出しましょう。
- ◎物置、車庫もしっかりと鍵をかけましょう。
- ◎車、バイクなどには、燃えにくいシートをかけましょう
- ◎夜は外灯をつけるなど、「放火されない・させない」環境をつくりましょう。

3 新型コロナウイルス感染症対策に伴う火災予防について

- ◎自宅での調理機会が増えた影響からか、ガスこんろや調理家電が原因となる火災が増加傾向にあります。定期的に台所周りや調理家電の点検や清掃を行いましょう。
- ◎消毒用アルコールは、誤った取扱いをすると火災の危険があります。注意しましょう。
 - ・火気の近くでは、使用しない。
 - ・詰め替えを行う場所は、換気する。
 - ・直射日光が当たる場所等、高温になる場所に保管しない。
- ◎飛沫防止用シートに着火し火災に至った事案がありました。シートは熱源から距離をとるほか、難燃性や不燃性のものの使用を検討しましょう。

アルコールの取扱いに注意しよう！



救急の状況

1 令和2年中の救急件数等

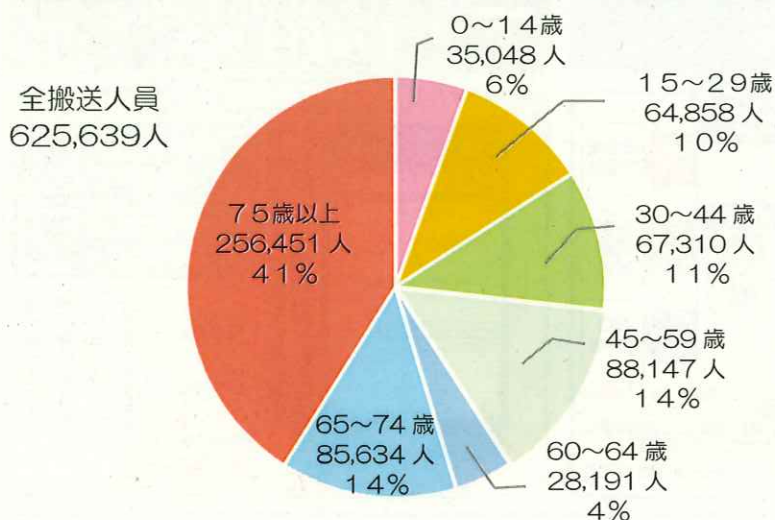
	出場件数 (件)	搬送人員 (人)	事故種別件数(件)			
			急病	一般負傷	交通事故	その他
東京 消防庁	720,965 (-104,964)	625,639 (-106,261)	476,455 (-73,851)	133,902 (-13,699)	38,829 (-6,867)	71,779 (-10,547)
墨田区	16,217 (-1,992)	14,060 (-1,997)	10,680 (-1,274)	2,833 (-337)	835 (-237)	1,869 (-144)

※ ()は対前年比を示します。

2 救急件数及び搬送人員の推移【東京消防庁管内：過去10年間】

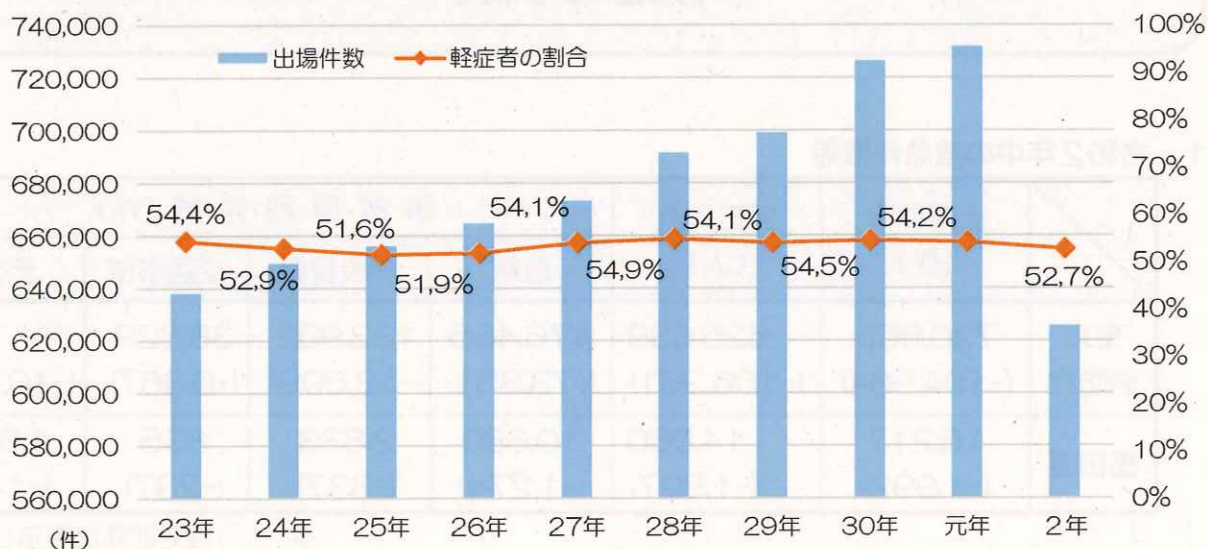


3 令和2年中の年代別救急搬送人員【東京消防庁管内】



コロナウイルス感染症対策下での救急活動(訓練)の様子

4 搬送件数に占める軽症者の割合【東京消防庁管内：過去10年間】



消防署からのお願い

救急相談センター『#7119』の活用

救急車を呼んだ方がいいのか、救急病院の情報を教えて欲しいなど、急な病気やけがをしたときに迷った際は、東京消防庁救急相談センター「#7119」をご活用ください。

相談医療チーム（医師、看護師、救急隊経験者等の職員）が、24時間年中無休で対応しています。

病院へ行く？救急車を呼ぶ？迷ったら...

電話でも!

#7119

ネットでも!

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

電話で相談

東京消防庁救急相談センター

#7119 電話

ネットでガイド

東京版救急受診ガイド

#7119 検索

救急相談センターのしくみ

<救急相談センターの主なサービス>
 ● 症状に基づく緊急性の有無のアドバイス
 ● 受診の必要性に関するアドバイス
 ● 医療機関案内
<救急相談としてお受けできない内容>
 ● 健康相談
 ● 医薬品情報に関すること（誤飲を除く）
 ● セカンドオピニオンに関すること

つながらない場合は… 23区 03-3212-2323 多摩地区 042-521-2323
 ※通常の通話料がかかります。

東京版救急受診ガイド

急な病気やけがをした際に、自ら緊急性の判断ができます。

スマートフォンは [こちらから](#)
 携帯電話は [こちらから](#)

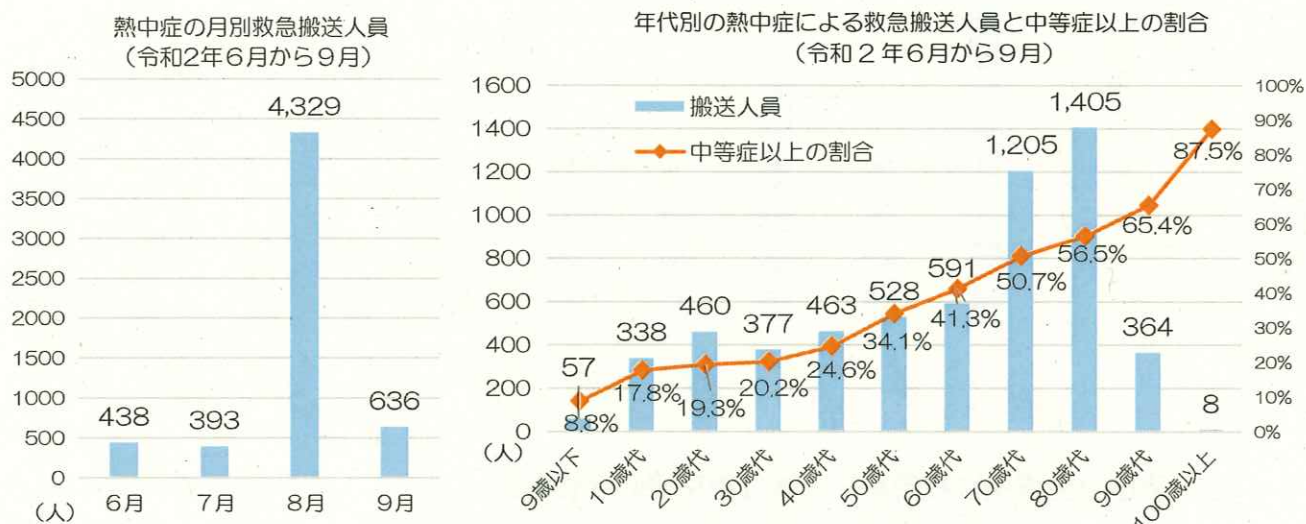
冊子版は全ての消防署にあります。ご利用ください。

季節の事故について① 【熱中症事故】

1 令和2年中の熱中症による救急搬送人員【東京消防庁管内：令和2年6月～9月】

令和2年6月1日から9月30日までの4か月間に、熱中症（熱中症疑い等を含む。）により5,796人の方が救急搬送されています。

例年、梅雨明け後の最初に気温が高温となる日に、急激に救急搬送人員が増加する傾向があります。また、高齢者ほど重症化する傾向にあります。



2 「新しい生活様式」での熱中症予防対策

熱中症予防対策

マスクを着けると皮膚からの熱が逃げにくくなったり、気づかいうちに脱水になるなど、体温調節がしづらくなってしまいます。暑さを避け、水分を摂るなどの「熱中症予防」と、マスク、換気などの「新しい生活様式」を両立させましょう。

1 適宜マスクをはずしましょう

屋外で人と十分な距離（2m以上）を確保できる場合は、熱中症のリスクを考慮し、適宜マスクをはずすようにしましょう。

2 こまめに水分補給をしましょう

のどが渇いていなくても、こまめに水分補給をしましょう。（1時間ごとにコップ1杯、1日あたり1.2ℓが目安です。）

3 日頃から体調管理をしましょう

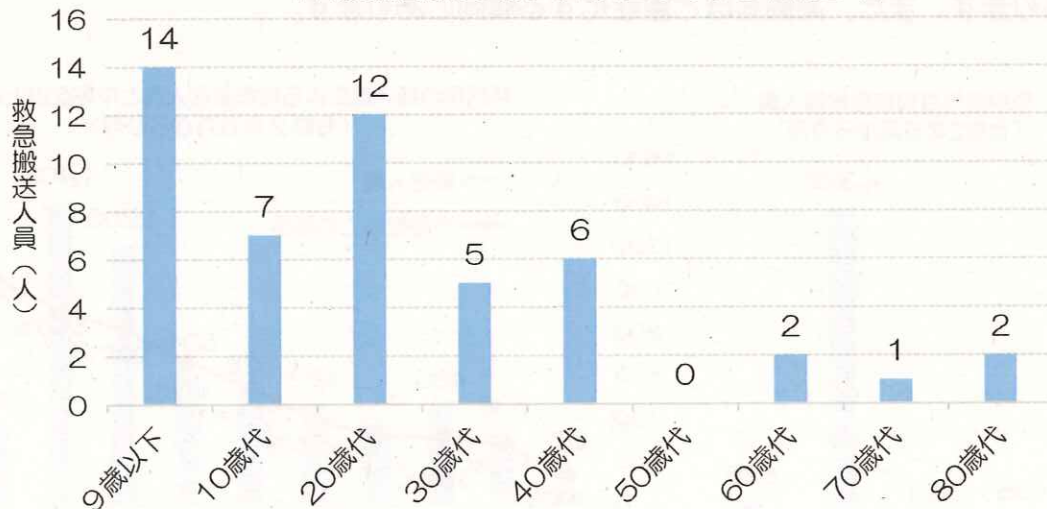
毎朝など、定時の体温測定と健康チェックをしましょう。また、体調が優れない場合は無理せず自宅で静養しましょう。

季節の事故について②【河川やプールでの事故】

1 河川やプールの事故による年代別救急搬送人員【東京消防庁管内】

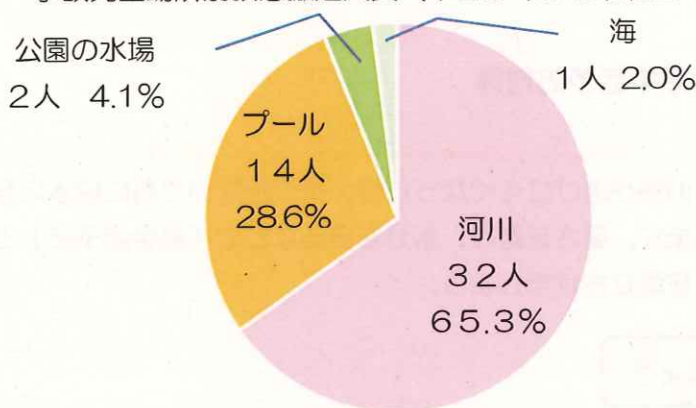
平成28年から令和2年までの6月から9月に発生した河川やプール等でおぼれる事故により、49人が救急搬送されています。（「自損」、「浴槽での溺水」は除く。）

年代別救急搬送人員（平成28年から令和2年）



2 事故発生場所別救急搬送人員【東京消防庁管内】

事故発生場所別救急搬送人員（平成28年から令和2年）



3 河川やプール等での水の事故を防ぐために

- ◎小さい子供と一緒に水遊びをする際は、子供から目を離さず、保護者や大人が必ず付き添って遊びましょう。
- ◎海や河川では、気象状況に注意を払い、荒天時や天候不良が予測される場合は遊泳や河岸等でのレジャーは中止しましょう。
- ◎海や河川では、ライフジャケットを着用するなど、事故の未然防止に努めましょう。
- ◎飲酒後や体調不良時には遊泳は行わず、遊泳しようとしている人がいたら、周りにいる人は遊泳をやめさせましょう。